

令和2年1月27日
四国電力株式会社

伊方発電所 18万7千V送電線からの受電停止について（続報）

伊方発電所1、2号機の屋内開閉所（管理区域外）において、1月25日15時44分、保護装置の動作により18万7千V送電線4回線からの受電が停止しました。

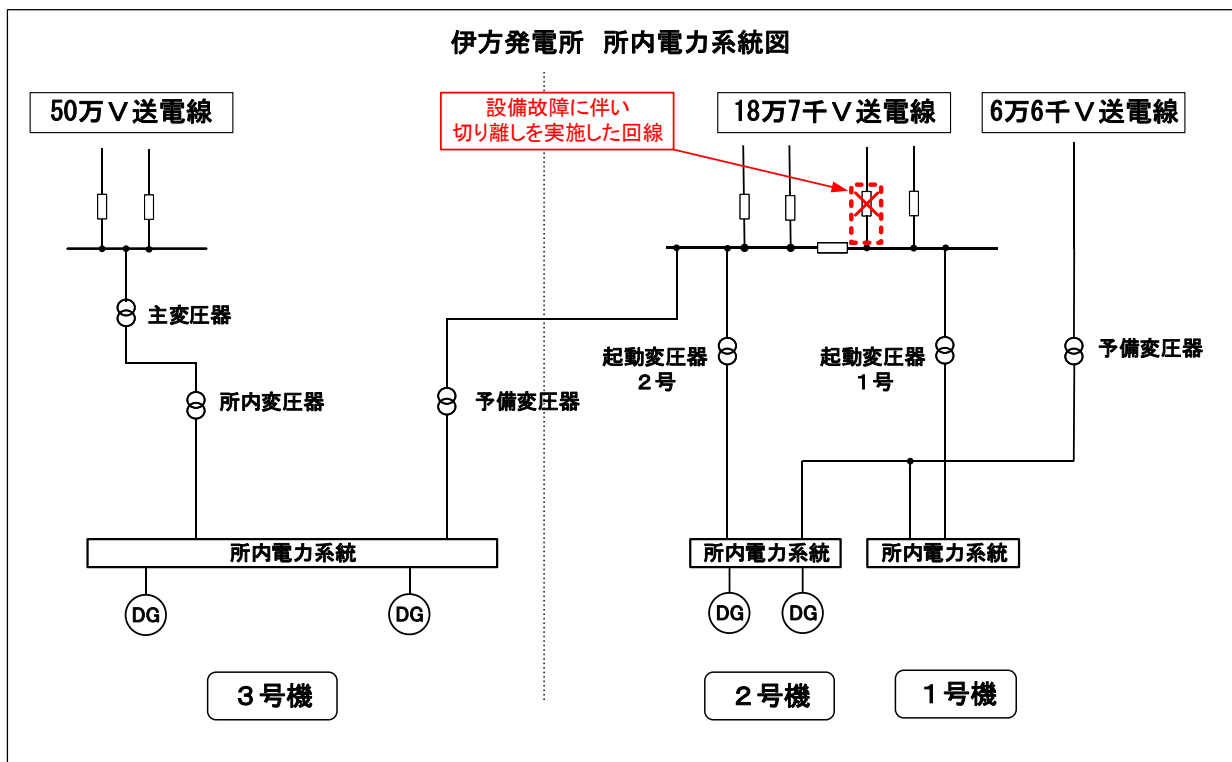
このため、1、2号機は直ちに6万6千Vの予備系統から受電しました。また、3号機は直ちに起動した非常用ディーゼル発電機から受電し、その後、50万V送電線からの受電に切り替えました。これにより、1、2、3号機ともに外部からの受電は復旧しました。

（1月25日お知らせ済み）

調査の結果、18万7千V送電線4回線のうち、1回線から受電する回路の一部に設備故障があることを確認しました。このため、当該回路の切り離しを実施し、本日17時13分、当該回路を含む1回線を除く3回線から受電し、18万7千V送電線からの所内電源を確保しました。

今後、引き続き、原因調査を実施します。

なお、本事象による環境への放射能の影響はありません。



（添付資料）

- ・ 事象発生時における伊方発電所所内電力系統の状態

以上

事象発生時における伊方発電所所内電力系統の状態

事象発生前、18万7千V母線の点検工事に伴う確認試験のため、1、2、3号機の所内電力系統は18万7千V送電線から受電していました。なお、通常、1、2号機は18万7千V送電線から、3号機は50万V送電線から受電しています。

事象発生時、18万7千V送電線の母線保護装置が作動し、18万7千V送電線4回線からの受電が停止しましたが、1、2号機は6万6千V送電線から直ちに自動で受電しました。また、3号機は非常用ディーゼル発電機が直ちに自動起動し、10秒程度で受電しました。その後、50万V送電線からの受電に切り替えた後に、非常用ディーゼル発電機を停止しました。

このように、18万7千V送電線からの受電が一時的に停止しましたが、設計通り、1、2号機は予備系統からの受電に、3号機は非常用ディーゼル発電機からの受電に成功しており、福島第一原子力発電所事故のように、全交流電源が喪失したわけではなく、使用済燃料ピットの温度上昇もわずかであったことから、安全性に影響はありませんでした。

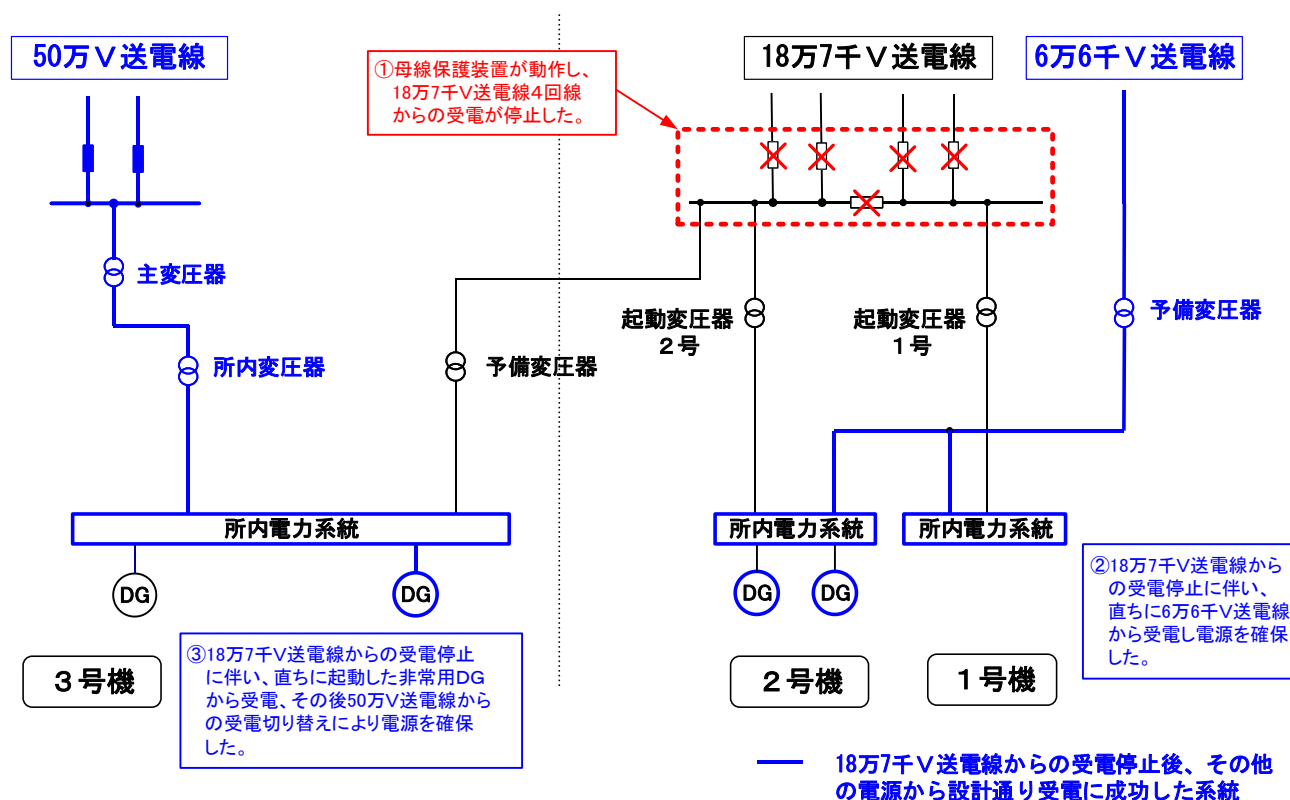


図 事象発生時の伊方発電所所内電力系統の状態